

みんなにやさしい、特別支援教育（４）

◆ボディランゲージ（体で伝える）

T先生の学級を通ると、先生の元気な声と子どもたちの笑い声が聞こえてきます。楽しそうだなと教室をのぞいてみると、先生が表現豊かに子どもたちに説明をされています。

子どもたちと接する時、「笑顔」と並んで重要なのは、教師のボディランゲージです。声だけでなく、体全体でも表現することによって、教師の言葉に力が増し、子どもの体にダイレクトに届くようになります。また、子どもたちの発する言葉を体全体で受け止めて



やることで、子どもと教師の間にピンと糸が張られたような一体感が生まれてくるものです。

ボディランゲージは、「ジェスチャーを交えながら、表情は大きく」するもので、非言です。人と人が会話をするときには主に「話し言葉」を使いますが、言葉自体が伝えるメッセージの量は、実はそれほど多くありません。では何が大切なのかというと、表情、ボディランゲージ、しぐさといった非言語でのやり取りが、会話の中では重要な位置を占

めているのです。目は口ほどにものを言う、という諺は科学的に証明されているのです。話し言葉がまだ理解しきれない子どもたちに話しかける時には、言葉以外の非言語コミュニケーション手段を十分に使うようにしたいものです。大げさなジェスチャー、表情は、言葉の理解を助けてくれます。ちょうど役者さんが、舞台上で演技をするときに

は普段よりも大げさな動作、言い方をしているところを想像するといいでしょう。

